



2006.3.31

マーク制作: 関知磨子(秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

(融合研のホームページ) <http://www.yu-go.info/>

(事務局) 〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4 (TEL & FAX) 043-463-1929

本号の内容

巻頭言 : 渡辺喜久副会長 「第10回融合フォーラム in 東京大会に向けて」

- 1 「第10回融合フォーラム in 東京実施計画」 準備の概要です。
- 2 融合研設立10周年記念事業を行います(再掲)。
- 3 「厚木ミニフォーラム」の概要 すばらしいミニフォーラムでした
- 4 千葉支部大会が開催されます。 東京大会の実行委員会も兼ねます。だれでも参加できますので、ご都合のつく方の参加を待ちしています。

巻頭言

巻頭言 「第10回融合フォーラム in 東京大会に向けて」

融合研副会長 渡辺 喜久

「いのち いっぱい 自分の花を」相田みつをさんの言葉のように、人も自然も自分の花を精一杯咲かせようとする季節になりました。富士山の町富士宮市では、桜の花と雪化粧の富士山が見事に調和し、一年のうちで一番美しい景色が、市民だけでなく観光客の目を楽しませてくれています。

さて、融合研の節目の大会としての東京大会開催まで5ヶ月弱となりました。企画研究部長を引き受け、今まで2回の実行委員会と1回の部会を持ち、委員の皆様のご協力を得ながらその準備を進めてまいりましたが、大会要項も公開できずに今日までできてしまったことをお詫びします。

今大会のテーマは、「学校が変わる・地域が変わる・そして私が変わる学社融合～学社融合の10年の歩みと今後を探る～」としました。

1997年5月、秋津小学校の実践「学校と地域のかるやかな連携」が、読売教育賞受賞したのを機に始まった融合フォーラムは、これまでに全国各地で実践発表を中心に9回開催され、「地域活動の掘り起こし・活性化」に寄与してきました。

そこで、10回目の今大会は、これまでの大会や活動を振り返るとともに、今後の更なる一歩を踏み出すために、「学社融合とは何か」を問い直し、「その目指すものは何か」また、「その進め方」について参加者全員で考え、「学社融合の内容の深化」を図るものにしていきたいと思います。そして、「いつでも、どこでも、だれでも」が、明日からの学校や地域の活動に楽しく係わることができればと願っています。

そのために、実践発表を中心に行ってきた分科会を、参加者全員がテーマに沿った話し合いができる分散会とし、一人一人が、学社融合について、「分からないことは分からない」と素直に言え、「参加してよかった」という思いを抱けるような大会にしていきたいと思います。

そこで、1日目のパネルディスカッションでは、これまで融合研の活動に深く係わってこられた方々に、学社融合の10年を振り返っていただくとともに、その成果と課題を明確にして、分散会の話し合いがスムーズに行われるようにします。2日目のシンポジウムは、分散会の疑問に答えたり、会場の皆さんからの意見を受けたりする中で、全国各地で実践者として活躍されてきた方々をシンポジストに迎え、「学社融合の未来」について大いに語り合いたいと思います。

今大会の今までの違いは、地方の大会のような地元や近隣からの参加者を募ることが難しい点にあります。担当として、どれだけの参加者が望めるかが大きな不安です。まず、会員が10年を一区切りとして学社融合について、理解を深めるために自ら問い直そうと考え、スタートした準備会です。来る8月19日(土)・20日(日)には、全国各地の出来る限り多くの会員が、東京に結集してくれることを切にお願いします。

私事になりますが、10年間、社会教育行政に係わり、学校現場に復帰して1年が過ぎようとしています。「学社融合を核にした地域に開かれた学校づくり」を重点目標の一つに掲げ、取り組んできましたが、具体的に形になったものは、ほんのわずかしかなかったかもしれません。職員会議や校内研修で、自分が講師となり勉強会を行ったり、会長、越田さんを招いて研修会を行ったり、石岡さんに「ハンナのかばん」の講演をしていただいたりしながら、職員の意識改革をしようとした一年でした。来年度は、そのいくつかの活動が動き出そうとしています。技術家庭科、国語、音楽、総合的な学習の時間では、今年度、学校内に建設された公民館で活動しているサークルの方々を学習パートナーとして学社融合が始まります。また、選択音楽では、地域子育てサークル、大学生、高校生、小学生と一緒にオペラ「かぐや姫」を12月に上演しようと計画しています。この計画を知った大学(音楽科)も協力してくれることになりました。

このような点においても、今回の東京大会は、私にとってこの上ない学びの機会だと思っています。

1 「第10回融合フォーラム in 東京」実施計画(案)

1 趣 旨

1997年5月、秋津小学校の実践「学校と地域のかろやかな連携」が、読売教育賞受賞したのを機に始まった融合フォーラムは、これまでに全国各地で実践発表を中心に9回開催され、「地域活動の掘り起こし・活性化」に寄与してきました。

そこで、10回目の今大会は、これまでの大会や活動を振り返るとともに、今後の更なる一歩を踏み出すために、「学社融合とは何か」を問い直し、「その目指すものは何か」また、「その進め方」について参加者全員で考え、「学社融合の内容の深化」を図るものにしていきたいと思います。

そして、「いつでも、どこでも、だれでも」が、明日からの学校や地域の活動に楽しく係わることができることを願い、本大会を開催します。

2 名 称 第10回融合フォーラム in 東京

3 日 時 2006年8月19日(土) 13:00~20日(日) 12:00

・事例発表ポスターセッション(屋台)は、19日(土) 10:30~

・フリートーク(語り尽くそう学社融合)は、20日(日)片付け・食事終了後2時間程度

(「屋台」、「フリートーク」については再検討して決定する)

4 会 場 日本青年館

5 テーマ 学校が変わる・地域が変わる・そして私が変わる学社融合 ~学社融合の10年の歩みと今後を探る~

6 日程

《1日目》

- 12:30 受付
- 13:00～13:10 開会行事
- 13:15～14:45
- (1) 事例4選(各5分で)
キャリア教育、子供の安心・安全、食育、読み聞かせ・学校図書館ボランティア等
- (2) 趣旨説明
- (3) パネルディスカッション
「学社融合の10年の歩みと今を語る」 成果と課題の明確化
コーディネーター：渡辺喜久
パネラー：宮崎稔、岸裕司、野澤令照、庄子平弥
- 15:00～17:30 分散会「私と学社融合」
コーディネーター：青木信二、中川洋太、車育子、戸叶俊文、
城佐知子、上農良廣
記録者を各支部に御願ひする予定です。
- 18:30～20:30 セリ市・懇親会

《2日目》

- 8:45 受付
- 9:15～11:15 シンポジウム「学社融合の未来を探る」
コーディネーター：越田幸洋
シンポジスト：矢吹正徳、渡部恒久、針生英一、渡邊真智子、
藤尾智子、野澤桂子
- 11:15～11:25 時期開催宣言(島根支部)
- 11:25～ 閉会行事(終了後引き続き総会)

これからの会議では、会議だけをするのではなく、できるだけ「学社融合推進のためのコーディネート力」について、学習会をする予定でいます。実行委員でなくてもお出でください。

2 融合研設立10周年記念事業委員会について

10年を振り返り、さらなる一歩となるような事業を行う。

実行委員長：岸裕司副会長、委員に矢吹正徳、阿部道彦両会員

上記以外の会員からの申し出や実情に応じたりして、適宜追加していくことがあります。

記念誌の発行；単行本の発行を視野に入れる。

(案) a、発足当時を語る座談会；記録として残していく必要があります

b、発足から10年までを語る座談会

c、支部のページ；東京に出て来られない地方の人が、支部活動を語る

d、「私と融合研」；会員と融合研との関わり・始めの一歩等を寄稿していただく

その他の事業；今後事業委員会をつめていきます。

3 「厚木ミニフォーラム」の概要

第2回 学校と地域の融合教育ミニフォーラム in Atsugi を終えて

家庭・学校・地域をつなぐ、これぞ仕掛け人！のなせる技
～保護者も、先生も、地域の人もみんな考えよう！今やれることを～

文責 / 中川 洋太（神奈川支部事務局長）

神奈川県厚木市での「第2回学校と地域の融合教育ミニフォーラム」は、104人もの参加者のもと、盛大に開催することができました。昨年同様、厚木市ジュニアリーダーズクラブの面々が、会の運営・盛り上げにと大活躍してくれました。

今年度のフォーラムは、会全体を「地域(まち)づくり」「仕掛け人」というテーマで構成しました。その概要を、お伝えします。

まずは、実施要領から

1 趣 旨

家庭、学校、地域の教育力が低下しているとささやかれています。でも、保護者も先生も地域の人も、それぞれの立場で真剣に考えています。今こそ力を合わせて考えませんか。大人が何をすべきかを。知恵を出し合えば、きっと何かができます。そのためのミニフォーラムです。子どもたちの今、未来を一緒に考えましょう。

2 主 催

学校と地域の融合教育ミニフォーラム in Atsugi 実行委員会

3 共 催

学校と地域の融合教育研究会

4 後 援

森の里地域家庭教育力地域支援協議会（神奈川県教委からの委託協議会）

神奈川県教育委員会、厚木市教育委員会、愛川町教育委員会、清川村教育委員会

厚木愛甲地区小・中学校校長会、厚木市小・中学校校長会

厚木市立小中学校PTA連絡協議会、厚木市青少年健全育成連絡協議会

厚木市子ども会育成連絡協議会、厚木市青少年指導員連絡協議会

厚木市母親クラブ連絡協議会、愛川町PTA連絡協議会、清川村PTA連絡協議会

5 協 力

厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会

6 開催日時

平成18年2月11日（土）12:45～16:45

7 会 場

厚木市ヤングコミュニティセンター5F

8 当日のプログラム

プロローグ 12:45～13:05 厚木市ジュニアリーダーズクラブ

基調講演 13:05～13:55 スクール・コミュニティって何？

はじめての学社融合から生涯学習のまち育てへ

講師：岸 裕司（学校と地域の融合教育研究会

副会長・秋津コミュニティ顧問）

分科会 13:55～15:55

第1分科会「これぞ仕掛け人！コーディネーターが拓く新たな可能性」

コーディネーター 宮崎 稔（学校と地域の融合教育研究会会長）

発表者1 厚木市立毛利台小学校及びパートナー委員会

発表者2 多文化まちづくり工房サポーター 矢野 泉さん

発表者3 あおば学校支援ネットワーク代表 竹本 靖代さん

第2分科会「これぞ仕掛け人！研修で培うコーディネート力」

コーディネーター 越田幸洋（学社融合研究所代表）

発表者1 森の里地域家庭教育力地域支援協議会（森の里中学校PTA）

第3分科会「これぞ仕掛け人！地域における生徒の力を引き出すコーディネーター」
コーディネーター 渡辺 喜久（学校と地域の融合教育研究会副会長）

発表者1 厚木市立藤塚中学校 日野原 博教諭

発表者2 厚木市青少年指導員 玉井 久子さん

全体会 16:05～16:35 分科会報告

エピローグ 16:35～16:45

青木信二（in Atsugi 実行委員長）、厚木市ジュニアリーダーズクラブ

フォーラム開催に向けてのこだわり

フォーラムの運営は実行委員制とし、次の点に留意して運営に当たりました。

- 1 実行委員は、フォーラムの運営そのものを「学びの場」とすべし

実行委員は、個人としての能力を最大限発揮するために分担制として、その立場に責任とプライドを持って事に当たる。担当の提案は「認めること」を大前提とする。「できない」ではなく、知恵を出し合って、その思いを達成できるように「できる方法」をみんなで考える。「どうしよう」と相談があっても提案以外は知らん顔をする。また、なによりもその過程を楽しみ既成概念にとらわれないようにする。「学社融合」には、柔軟な頭と実行力があればよい。

- 2 実行委員は、仲間づくりを最優先すべし

実行委員は仲間づくりを最優先するため、「実行委員会」ありきではなく、「アレの会」ありきとして参加する。実行委員への参加の声を積極的に行う。従って、実行委員会に出席しなくても、「アレの会」の参加も認める。

- 3 発表者・参加者は、幅広い団体等の範囲に声をかけるべし

「発表することが自信につながり、活動がさらに活性化する」「参加してもらうことが、同志を増やすことにつながる」ということを最大の信念として声かけを行う。そのためには、多方面からの後援申請をとる。従って、動員はかけない。

プロローグは今年もジュニアが決めてくれました

このフォーラムは、「開会の言葉、 さんお願いします」なんて始まりません。会場にはBGMが流れています。そのBGMが大きくなったと思ったら、突然消灯。暗闇に紛れジュニアが舞台上に登場。電気がついたら「ふるさと」の合唱でフォーラムはスタートしました。テーマの一つ「地域（まち）づくり」です。合唱が終わったところで雰囲気ガラッと変わり「サタデーナイト」にあわせて子どもたちが踊り出します。地域で活躍するジュニアによるアイスブレイキングです。

ここまで来て、参加者に「一息つく間」なんてあたえません。TV「必殺！仕掛け人」のテーマソング、「パララー」のトランペットが鳴り響いたところで、講演会講師の岸さん、分科会コーディネーターの宮崎さん、越田さん、渡辺さんの紹介です。これで、プロローグは終了です。と、同時にもう一つのテーマ「仕掛け人」の始まりです。

【演出班：山田 淳司】

昨年に続いてのジュニアリーダーとの演出・運営にあたり、最初に考えたことは、ダンスや歌を取り入れようということではなく、ジュニアリーダーの子どもたちに、「地域とは故郷のことであり、故郷とは、そこで結ばれる絆のことだ」と語らせたい、感じてほしいということでした。

たった2回の練習でしたが、練習のときから恥ずかしがらずに真剣に「故郷」を歌うジュニアの姿に感動されたのですが、それは、昨年に続き2回目の参加という子が半数以上いたこともあり、昨年のフォーラムの余韻というかまさしく絆というか、そういうものがジュニアの中に残っているからなのだろうと感じました。

昨年のフォーラムは、ダンスの振りも司会の台詞も実は私がつくったシナリオどおりでした。2回しか練習できないのだから、それが精一杯でした。今年も2回しか練習はできませんでした。しかし、2回目の練習のときにジュニアから「ダンスのこの部分はこうしてみたい」という提案があり、自分たちで作り直したり、本番の台詞もアドリブがたくさん入っていて驚かされたりしていたのです。2回のフォーラムを通して、子どもたち

は一回りステップアップしたのだと思います。

ジュニアの子どもたちだけではありません。実行委員の仲間たちからも、たくさんのアイデアをもらいました。「プロローグは、必殺、仕掛け人のテーマ曲をぜひ使おう」、「エピローグに、“自分にとっての地域とは”を語ってもらおう」などなど…。まさしく、みんなでつくり上げるミニフォーラムであったと思っています。

本当は、練習さえもう少しやれるのであれば、他にやりたいことがありました。反省、課題といえばそのことができなかったことです。でも、ここではふれません。この次のために…。

【ジュニアリーダー：菊澤あずさ ほか8人】

自分たちの活動もそうだけれども、大人の人たちがいろいろと地域の自分たちのことを考えてくれるので嬉しかった。

とても、とてもキンチョーした。たくさん人が、私たちのことを聞いてくれて、意見や注目してくれて良かったデス。自分たちのことを大人が何か対等に扱ってくれたことが感心した。

全体会、コミュニティスクールではありません、こだわりの「スクール・コミュニティ」です

保護者も学校も、地域の人が互いの立場で力を合わせ、目指すものは「コミュニティスクール」から「スクール・コミュニティ」へ。全体会、ユークンこと岸さんの基調講演は、そんなこだわりをもって学校をまちづくりに活かし、その実践から、大人も学び、人育ちにつながる。2つの学校機能を活かし、仕掛け人の存在や融合（Win&Win）こそ、「スクール・コミュニティ」の創生の秘訣。

スタッフの日頃の自信の表れ！？なのか、ユークンの「スクール・コミュニティ」への情熱からか、タイムキーパー！？スタッフも大いに盛り上がった。ユークンの講演には「時代（とき）」はいらなかった。

【総務班：佐々木 徹】

活動の原点は1人から2人、2人から4人、3人集まれば6人になる。世代間のギャップなどは必要なく、学校を拠点に、いずれはまち（地域）・（街）づくりへ。

仲間づくり、人づくりを繰り返し、そんな所へ改めて住んでみたくなり、創りだしていくことで住んでよかったと思えるような「ふるさと」をつくって行きたい。

第1分科会「これぞ仕掛け人！コーディネーターが拓く新たな可能性」

第一分科会では、「厚木市立毛利台小学校及びパートナー委員会」、「横浜市泉区のNGO多文化まちづくり工房」、「横浜市青葉区のおおば学校支援ネットワーク」の三つの事例紹介を一気に行いました。

【広報班：前田 圭菜子】

はじめて分科会の担当をさせていただいたのですが、事例の発表者を決めるまで、そして依頼から当日を迎えるまで、とにかく一筋縄でいかない事が多く、結果、より多くのことを学ばせていただきました。分科会キーワードが「仕掛け人」「コーディネーター」でありましたが、1つの分科会を仕掛けるまでの力量は、まだまだ自分には不足していることを痛感いたしました。しかし、融合仲間の熱い精神だけは受け継いでおり、そこだけは異様な自信をもって、それぞれの事例発表者に話を持ちかけることができました。それが伝わったかどうかは定かではありませんが、三者三様、3つの事例とも興味深いものが多く、最後の質問タイムにも活発な質問が出され、結果的に良かったと思います。

第2分科会「これぞ仕掛け人！研修で培うコーディネート力」

「ともに楽しみ ともに学び ともに育つ」をテーマに、森の里地域家庭教育力地域支援協議会（森の里中学校PTA）の発表が行われました。

森の里中学校では5年前からPTAのふれあい活動が始まり、地域ふれあい活動では、今ある地域の活動を利用できないかと地域団体に呼びかけ、イベント等の会場設営や運営など、各種支援に自主的に参加し、5年間の参加数は年平均で延べ400人を超え、地域活動を通して大人との交流が始まった。また、ふれあいクラブでは、地域で活動しているサークルを中心に、ともに学ぼうと、学校行事とPTA活動を融合し20を超える講座を開設し、生徒も大人もともに楽しみながら、ふれあい、ともに学ぶ講座となった。そして森七ネットワーク会議の設立、子どもたちが参加しやすい地域活動を目指し、また、学校との日程調整など、同じ地域内でも活動情報を交換しやすくし、縦割りから横のつながりへの取り組みを目標とした。一連のふれあい活動から、継続のためのシステムづくりがされ、組織の枠を超えたネットワークによる情報・意見交換ができる支援体制が確立された。また、このような活動の中から地域ぐるみで新たな活動が生まれ、子どもが地域に出れば、大人も出る。また、役割分担「ねばならない」活動では継続はできないと、子どもも大人も、ともに楽しみながら、学び、育つこと、ともに成長することが、子どもを育てることへの第一歩であり地域づくりもできるのである。

発表後、分科会参加者が質問事項を付箋に書き出し、参加者それぞれの質問事項を模造紙に張り出し、発表者と参加者による質疑応答が行われた。これは、トーク&トーク形式の研修であり、一方的に発表者が発言だけするのではなく、質疑応答や意見交換をすることで、事例発表で言い足りないこと、趣旨を再度確認させることを目的とする手法で行われたが残念ながら時間の関係で議論はあまりできなかった。

【分科会班:清水 良】

家庭教育力の向上を図るために地域で支援できることは何か...「ともに楽しみ、ともに学び、ともに育つ」をテーマに実践と研修を積み重ねてきた(神奈川県教委委託事業)森の里地域家庭教育力地域支援協議会は、子どもつながり「子縁」が人と人とのかかわりをつくり家庭と家庭を結び、地域全体で子どもを育成しながら大人も自ら学んでいく場づくりを進めてきました。子どもも大人もともに活躍でき、楽しく、感動できる場が地域で継続的に行われることは、家庭・地域教育力の向上を図り、よりよいまちづくりへとつながっていきます。森の里は今後もさらなるステップアップを目指して活動し、進化し続けていくことでしょう。

第3分科会「これぞ仕掛け人！地域における生徒の力を引き出すコーディネーター」

第3分科会は、「生徒を主役に！」がキーワードです。藤塚中学校の日野原先生からは、中学生が公民館で小学生に教える理科の実験教室の様子を、そして青少年指導員の玉井さんからは、高校の部活動の生徒が小中学生に教えるスポーツ教室の様子の紹介でした。

計画段階から全てを任せられた生徒。いつもの教えられる立場から教える立場になった生徒はどんな動きを見せてくれたのでしょうか？そして仕掛けた先生や青少年指導員はどんなサポートをしたのでしょうか？

写真やビデオに加え、実際に活躍したバレー部の高校生二人からも感想を話してもらいながらの発表は、教える立場の生徒と教室に参加する子どもたち、そしてサポートに徹する大人たちが苦労の中でもそれぞれの喜びを感じながらつながっていく様子が伝わってくるものでした。

【分科会班:五十嵐 徹】

「外からアプローチするには、学校にはいろいろな垣根(先生の忙しさ、校長先生の考え方...)があるね。」そんな投げかけから始まった意見交換でした。

「この垣根に苦しい思いをしている」という意見の一方で「学校の外から感じる垣根と学校に入ってみて感じることは違うかもしれない」「確かな実践より第一歩」「うまくいかないかもしれないけど一歩を踏み出すと見えることがある」そんな意見も出されていました。日野原先生は、最初は助手だった生徒

に「任せてみよう」と考え実行に移したのがはじまり、玉井さんは、思い切って高校に足を踏み込んだのがはじまりでした。まずは一步を踏み出すことから始まった実践、そして出された皆さんのいろいろな意見の中から、「困難はあるけれど、やれるかもしれない」というエネルギーをもらった分科会ではなかったのかなと感じています。

日野原先生の、「『ありがとう』と言ってもらえることが子どもにとって何にも代え難いことです」の言葉は心に残りました。

エピローグは「ただでは帰さない」を念頭に置き

分科会報告は、分科会担当を中心に、各コーディネーターからも感想をいただきました。そして、「地域（ふるさと）ではじまり、地域（ふるさと）で終わる」ために、実行委員長である青木さんのお礼の言葉の後、実行委員が舞台上に全員集合。一人一人が「今、自身が地域（ふるさと）に対して思うこと」を述べて、それぞれ自己紹介。地域について参加者に考えてもらおうきっかけづくり（提案）のつもりでしたが、うまくいったかどうかは・・・？最後は、ジュニア・実行委員・全員で「ふるさと」の合唱で締めくくりました。涙ぐんでいる人もいて、感動的にジ・エンドでした。

【実行委員長：青木 信二】

第2回本大会は、昨年度同様、多くの社会教育団体や市町村教委から後援をいただき、さらに今年度は県教委と厚木愛甲地区および厚木市小中学校長会の後援をいただくことができました。おかげさまで教師をはじめとする多くの教育関係者にご参加いただき、更なるステップアップになったと思っています。関係各位に心よりお礼申し上げます。さて、2回目の開催に踏み出すことは、少し勇気が必要でしたが、このように多くのスタッフの賛同を得て本大会を継続できたことは、自分を含めスタッフ一同が予想していた以上に大きな成果を得られたのではと思っています。まさにバックギアのない私には、自ら実践しながら、一步、一步、着実に、周囲も見ながら「前進」の極意ですね。

おまけ（記録）

当日の参加者総数 104 人（青森県、宮城県、栃木県、群馬県、千葉県、神奈川県、東京都、静岡県）

懇親会参加者総数 43 人 宿泊者総数 27 人

実行委員総数 19 人 実行委員会開催総数 4 回（アレの会 5 回）

ジュニアリーダーとの打ち合わせ回数 2 回

フォーラム申し込み最初：青森県 工藤 健二 様

フォーラム申し込み最後：当日、看板を見て参加した人 1 人

締め切りを過ぎてからの申し込み：半数以上

参加者の感想がありますので、事務局までご連絡ください。

懇親会への差し入れ多数：送付・お持ち込みいただいたみなさん、ありがとうございました

【実行委員（良き仲間たち）】

青木 信二（実行委員長：市P連協）

坂口 雅志（情報班：森の里自治連）

田淵 栄一（分科会班：厚木市教委）

五十嵐 徹（分科会班：湘三教育事務所）

佐藤 智（総務班：大学院生）

清水 良（分科会班：愛甲教育事務所）

奥田 七代（分科会班：市P連協）

若林 恭子（総務班：厚木市）

井上 裕之（情報班：森の里自治連）

大田垣 洋（分科会班：厚木市教委）

中川 洋太（総務班：厚木市教委）

佐々木 徹（総務班：厚木市）

山田 淳司（演出班：厚木市教委）

前田 圭菜子（情報班、分科会班：青葉区）

* 以上、融合研神奈川支部会員

大谷 京司（分科会班：愛甲教育事務所）

美濃部 淳（演出班：市P連協）

細山 信（情報班：市P連協）

植木 勤（総務班：大学生）

持丸 茂樹（分科会班：愛川町教委）

【会計報告】

収入	63人 × 500円 = 31,500円	*参加費代として
	27人 × 12,000円 = 324,000円	*宿泊費代として
	16人 × 5,000円 = 80,000円	*懇親会費代として
合計	435,500円	
支出	10,000円	(お弁当代: 500円 × 20個 発表者、ジュニア、講師等)
	21,500円	(ビデオテープ等消耗品代)
	404,000円	(七沢荘支払い等)
合計	435,500円	
差引残高	435,500円	435,500円 = 0円

以上、相違ありません 事務局 中川 洋太

4 学校と地域の融合教育研究会 18年度千葉支部大会開催のお知らせ

- 1 期日:平成18年5月20日(土)大研修室A、21日(日)大研修室B
- 2 会場:OVTA(財団法人 海外職業訓練協会)URL <http://www.ovta.or.jp/>
〒261-0021 千葉市美浜区ひび野1丁目1番地 TEL:043-276-0211(代表・フロント)

18年度千葉支部大会は

- ・1日目は大学生や院生の学士論文、修士論文の発表と融合子ども教室の実践事例の発表とディッシュカッション、夜はブレインストーミング&懇親会です。
- ・2日目は全国大会東京大会の第3回実行委員会とします。
- ・宿泊はシングル(6300円)20室押さえてあります。

発表者と運営スケジュールは調整中です。詳細決まりましたら連絡いたします。

1日目

- 1 受付10時00分~10時30分
- 2 融合研会長挨拶10時30分
- 3 事例発表 修士論文又は学士論文10時45分~11時15分
- 4 事例発表 融合子ども教室実践発表11時30分~12時15分
- [5 昼食12時30分~2時]
- 6 事例発表 修士論文又は学士論文2時15分~2時45分
- 7 事例発表 融合子ども教室実践発表3時~3時30分
- 8 事例発表 修士論文又は学士論文3時45分~4時15分
- 9 諸連絡4時30分~4時45分
- 10 片付けと退室17時

2日目

- 1 融合子ども教室実践発表 9時10分~9時40分
- 2 融合子ども教室実践発表 9時55分~10時25分
- 3 全国大会東京大会第3回実行委員会10時30分~12時00分
(1) 渡邊企画研究部長挨拶
(2) 融合研宮崎会長挨拶

大会参加会費:1000円、学生500円

宿泊する方はシングル6300円。朝食は525円で食べられます。
ブレインストーミング&懇親会参加費は2,000円です。

申込先：千葉県支部 上農良廣 yoshihirokami@jcom.home.ne.jp
090-4711-3606、 047-442-6756
〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺 5-9-35

交通：・JR 京葉線 海浜幕張駅:北口から徒歩 8 分(約 0.7km)

- ・JR 総武線 幕張駅:南口から海岸方面(南)へ徒歩 15 分(約 1.5km)
- ・JR 総武線 幕張本郷駅:(JR 総武線、京成千葉・千原線)南口 1 番バスのりばから
新都心幕張線に乗車 海浜幕張駅バス停下車(バス約 10 分)
- ・空港リムジンバスを利用の場合
- ・羽田空港から:1 階 12 番のりばから幕張方面行きに乗車 海浜幕張駅バス停下車
(バス約 60 分)

自動車をご利用の場合(地図の詳細が必要な方は、上農まで、ご連絡ください)

東京方面から：京葉道路(幕張 I.C.) 国道 14 号 イトーヨーカドーの信号右折
テクノガーデン交差点左折

東京方面から：東関東自動車道(湾岸習志野 I.C.) 国道 357 号(湾岸道路木更
津・市原方面) 2Km 中瀬信号右折 テクノガーデン交差点左折

千葉方面から：国道 14 号 イトーヨーカドーの信号左折 テクノガーデン交
差点左折

千葉方面から：東関東自動車道(湾岸千葉 I.C.) 2 つ目の信号左折 テクノガ
ーデン交差点左折

事務局より

第 9 回の融合フォーラムを開催した高知県に、新たに支部が発足しました。高知支部の特徴は、フォーラムでも大活躍をした大学生が中核になって、研修会(ミニフォーラム)を開催していることです。学生の活動を会員が支えて、見事な成果を挙げています。詳細は、直接、支部へお問い合わせください。〔連絡先〕

編集後記(のようなもの)

会報 31 号をお届けします。今年度は融合研として「地域子ども教室」を実施したり、島根県と高知県に新たに支部が発足したりして、また発展をした年であったと思います。そうして、今号の案内にもございますように、これまでの実践を振り返るとともに更なる飛躍を期して、いよいよ 8 月には 10 回目になる記念の融合フォーラムが開催されます。会員のみなさんの多くの参加を期待すると共に、それぞれの場でのより充実した活動を祈念しています。(M)